

## あるクリントン支持者が偽ニュースを作り、メディアがこれを報じて、ウィキリークス文書は信用できないと言う

【訳者注】この記事の内容はやや複雑で、わかりにくいところがあるが、要するにこういうことであろう——あるクリントン支持者が、クリントン演説の、ほぼ偽物と判断できる写しを作り、ネット上に発表して、トランプ支持者をうまく引っかけて、笑い者にしようとしたところ、引っかかったのはクリントン派の大物のジャーナリストたちだった。

そこまでは、大笑いの笑い話のようだが、このエピソードの本質は深刻で、むしろ戦慄すべきものである。なぜならこれは、“フェイク・ニュース”によって世を治めている政府・主流メディアが、“フェイク・ニュース”を取り締まり始めたという話だからである。つまり、理性をもった正直者が、ウソつき（危険人物）として検挙されるかもしれないという話である。

この話が貴重なのは、権力者の取る手段のパターンが、ここにも現れていることで、彼らは常に、自分の犯している同じ不正を、相手のものとして責める。そして恬として恥じないということである。それはここで何度も指摘した。ロシアの報道官に「あなた恥ずかしくないの」と言っ、見事にやり返された、米国連大使サマンサ・パワー (<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160920.pdf>)、同じくロシアの記者に質問されて答えられず、「自分の胸に手を当ててみよ」という意味のことを言った、傲慢な国務省報道官ジョン・カービー (<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/161124.pdf>)、さらに大きくは、NATO ワルシャワ会議での「ロシアは世界平和を乱し、国際法を無視している」という内容の決議文 (<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160721.pdf>) ——すべてが同じパターンである。これはスリを働こうとして見つかった途端に、「スリだ、スリだ！」と大声で叫ぶようなものである。相棒（御用メディア）を作っておけば、まずは成功するだろう。

Glenn Greenwald

December 11, 2016, Information Cleaning House

“フェイク（偽）・ニュース”という言葉が、選挙以来、盛んに使われている。しかしこの言葉は、“テロリズム”とか“ヘイトスピーチ”といった、他の変幻自在な政治的ラベルと同じである。この言葉は明確な定義を持たないから、プロパガンダと検閲の道具として以外は、本質的に役に立たない。この新しい言葉を理解するのに最も重要な事実は、“フェイク・ニュース”を最も大声で弾劾する者たちが、それを最も攻撃的にまき散らす者たちだということこ

とである。

最も露骨な例の一つは、最近のワシントン・ポストの記事だった。それは、新しい匿名のグループが、ロシア寄りのニュース・メディアとされるものの、嫌悪すべきブラックリストを宣伝するものであり、この恥ずべき記事は、ポスト紙自身が、何よりフェイク・ニュースに頼っているにもかかわらず、“フェイク・ニュース”を弾劾しようとする、無数の無責任なジャーナリストがこれを広めている。(ポスト紙は、今週、こうした批判を認める言い訳の言葉を、やっと付け加えた。この編集者は、馬鹿々々しくも、この記事の大筋は確かなのだが、このブラックリストが「確かであると断言する」つもりはないと断っている。)

<http://www.rollingstone.com/politics/features/washington-post-blacklist-story-is-shameful-disgusting-w452543>

<https://theintercept.com/2016/11/26/washington-post-disgracefully-promotes-a-mccarthyite-blacklist-from-a-new-hidden-and-very-shady-group/>

<https://www.washingtonian.com/2016/12/07/washington-post-appends-editors-note-russian-propaganda-story/>

現在、更にそれを確かめる例が存在する。去る10月、ウィキリークスが、ジョン・ポDESTAのアーカイブからEメールを暴露していたとき、クリントンの選挙陣営と、そのメディア代表者たちは、公衆に向かって堂々とウソをつく戦略を採り、全く何の根拠もないのに、このEメールは改ざんされた作り物であるから、無視すべきものだと主張した。このウソは——そしてこれは、それが虚偽だとわかっていながらつく、または真理を無視する大胆さによるウソなのだが——Joy Ann ReidやMalcolm Nance、アトランティック紙のDavid Frum、それにニューズウィークのKurt Eichenwaldといった、MSNBCニュース・ネットワークの記者によって、最も攻撃的に増幅された。

<https://twitter.com/JoyAnnReid/status/785793414201769984>

<https://twitter.com/MalcolmNance/status/784539641529720832>

<https://twitter.com/davidfrum/status/784981425288310784>

[https://twitter.com/kurteichenwald/status/785630792781144064?ref\\_src=twsrc%5Etfw](https://twitter.com/kurteichenwald/status/785630792781144064?ref_src=twsrc%5Etfw)

ウィキリークス・アーカイブのEメールは、手を加えたか、ニセモノかのどちらかだ、したがって無視すべきだ——これは、マケドニアの少年やクレムリンの工作者などでなく、MSNBCやThe AtlanticやNewsweekといった、地位あるニュース・ソースが言いふらしている、古典的なフェイク・ニュースである。そしてこのフェイク・ニュースは、計略によって、インターネットすべてに野火のように広がり、それが本当だったと信じたがる何万という人々によって、飢えたようにクリックされ、共有されている。この企まれたニセ情報キャンペーンの結果として、Eメールの内容について報道する者は、直ちに、あのアーカイブ

の文書は偽物と証明されているよ、という主張にぶつかるのである。

そのような主張で最も大きなダメージを与えたのは、MSNBCの情報アナリスト、Malcolm Nance である。10月11日の私の記録にあるように、彼は、何らかの奇怪な理由によって、“公的警告”と銘打ったものをツイートした。そのお触れにいわく——「#PodestaEmailsは、明らかに偽造だらけで、プロの手によるものでさえない#blackpropagandaであることがすでに判明している。」このツイートは、4,000人以上の人々によって転送された。これはReidやFrumのような、クリントン支持のジャーナリストによってさらに信用性が加えられた。

<https://theintercept.com/2016/10/11/in-the-democratic-echo-chamber-inconvenient-truths-are-recast-as-putin-plots/>

<https://twitter.com/hashtag/PodestaEmails?src=hash>

<https://twitter.com/hashtag/blackpropaganda?src=hash>

こういったものが、今度は、Daily News Bin という新聞の記事につながり、その見出しには、「MSNBC 情報専門家：ウィキリークスは、実はヒラリー・クリントンのものでない、ニセ E メールを流している」とある。この古典的なフェイク・ニュース、特にナンスとリードの作品は、フェイスブックだけでも4万回もシェアされている。

<http://www.dailynewsbin.com/news/intelligence-expert-confirms-latest-hillary-clinton-email-dump-from-wikileaks-is-full-of-forgeries/26242/>

最初から明らかなことは、企んだニセ情報だとして公衆を騙した完全な詐欺行為は、クリントン支持者たちからのこの非難攻撃であって、ウィキリークスの文書ではなかった。ポデスタ E メールについての主張に関しては、現在、誰が最初にそれをねつ造したのかが、正確にわかっている——それはある筋金入りのクリントン熱狂者だった。

MSNBCの“情報アナリスト”であるナンスが、この“公的警告”を発令したとき、彼は、「ポデスタ E メールと言われるものにご注意を！ トランプ党が文書を改ざんしています」と警告しているあるツイートにリンクした。そのツイートがまた、The Omnivore と自称する匿名のアカウントからのツイートにリンクしたが、この人物は、明らかにニセの写しを載せて、これがヒラリーの、ゴールドマン・サックスに対するスピーチだと言っていた。そのニセの文書は、決してウィキリークスに発表されなかったが、それは、ウィキリークス文書は改ざんされているという、MSNBCに影響された主張にとって、十分な根拠であった。

<https://twitter.com/semenovaka/status/784535123056332801>

<https://twitter.com/hashtag/PodestaEmails?src=hash>

<https://twitter.com/OmnivoreBlog/status/784509759282110465>

しかし、このゴールドマン・サックス演説のニセの写しをねつ造した人物は、“トランプ党”では決してなかった。彼はヒラリー・クリントンの献身的な支持者だった。Daily Beast 紙において匿名 The Omnivore の背後にいる、この人物は、仮面を脱いで Marco Chacon と名乗り、自分のことを「拡散用フェイク・ニュース」の製造者だと言い、狙っているのはサンダーズとトランプの支持者だと言った。(彼は、明白にニセとわかる反クリントン文書でっちあげ、クリントンの敵がそれを引用するように誘いかけ、彼ら自身が信用をなくするように仕掛けようとしていた。) 彼が、クリントンの敵を不利に見せるための、でっち上げニュースを載せていないときは、彼のアカウントは、他の標準的なクリントン支持アカウントと同じだった——サンダーズ、次にトランプについての、多数のネガティブな項目を載せ、多くのクリントン弁護記事へのリンクを設けていた。

<https://twitter.com/OmnivoreBlog/status/784509759282110465>

11月21日に発表した Daily Beast の記事で、Chacon は、ゴールドマン・サックス演説の写しを、どのようにねつ造したかを説明している。彼がそうしたのは、公開されたウィキリークスのポデスタ E メールの中に、ウォール街銀行向けのクリントン演説の、現実の抜き書きが含まれているのを知る前だった、と彼は言っている。しかし、Chacon は、ウィキリークスが実際のクリントンの抜き書きを発表したと知った上で、彼の嫌いな連中、つまりクリントン批判者たちを騙して、彼のでっち上げスピーチを本物と思わせ、彼らが信じやすい馬鹿者だと証明してやろうとしたのだった。

しかし Chacon にとって残念なことに、彼のフェイク・ニュースによって騙されることになったのは、この国の最も有名なクリントン支持者たちで、そこには、MSNBC の、老練ということになっているジャーナリストが含まれていた。彼らは、彼の明らかな作り話を使って、ウィキリークス・アーカイブは、信用できないのだから無視すべきものだと、世間を信じさせようとした。自分のフェイク・ニュースを本物として広めたのが、クリントン支持のジャーナリストだったということが、今、Chacon をさえ戦慄させている——

このツイートは、恐ろしく拡散が早かった。それはほとんど流行のように始まった——しかし現在も続いている——ハッシュタグ #bucketoflosers。これを下手な偽造だと自ら宣言しているツイートが、特に注目すべき MSNBC の情報アナリスト、マルコム・ナンスによって取り上げられ、彼はウィキリークスの公表には用心せよとツイートした。・・・

ナンスは、確固とした情報の経験をもっているのだから、いろんなヒントが埋め込まれ、完全にコミカルな写しの特徴をもつこれが、ニセモノだと簡単に見抜いてもよいと思

われるのに、彼はこの文書を調べてこう言ったのである——「公的警告：  
#PodestaEmails は明らかに偽造だらけで、プロの手によるものでさえない  
#blackpropaganda であることが、すでに判明している。」・・・

結局のところ、これは何かを変えただろうか？ 私にはわからない。私は思いがけず、  
ウィキリークスを傷つけたようである。これは私の誇りにはならないが、申し訳ないとも  
思っていない。私は、一部の人々は、自分がニセモノを信じていたことに気づくよう  
になったのではないかと思う。

この最後のセンテンス——彼の詐欺行為の結果、「自分がニセモノを信じていたことに、  
気づくようになった人々もいる」——は、少なくとも Eichenwald、Frum、Nance、そして  
Reid のような人々に関する限り、正しくない。明らかに最初から、理性をもち正直な人々  
から見て、このウィキリークス文書のどこにも、手が加えられた証拠など皆無であるのに、  
そして (Chacon 自身が言うように) 少しでも知識のある者なら (いわんや “情報専門家”  
ならなおのこと) 誰一人、彼の明らかなフェイク・ニュースに騙される者はいないはずなの  
に、これらのウィキリークス文書について、公衆にウソを流したジャーナリストの誰も、一  
度たりと自分のやったことを認めていない。

彼らの偽ニュース・ツイートは——人々に、このウィキリークス文書を偽造と見るように警  
告しながら——掲載されたままで、事後の撤回もなく、自分たちがこのウィキリークス・ア  
ーカイブについて流した虚偽を認めもしていない——この非難を喧伝した MSNBC の一味  
を含めて。

実際、誰の目にも明らかなことは、Chacon の匿名で掲載された文書が、このウィキリーク  
ス・アーカイブを非難攻撃した のでない だけでなく、ほんの少しでも調査していたら、この  
偽造文書を作った人物が、クリントン支持者 であって、“トランプ党”でもクレムリン工作  
者でもなかったことが、はっきりしただろうということだ。実際、Chacon が畏をかけよう  
とした、クリントン批判ジャーナリストの一人、Michael Tracey は、その当時、まさに同  
じことを言っていた。しかし、彼の事実が、MSNBC/Newsweek の政治的アジェンダと食  
い違っていたがために、それらは無視されて、ウィキリークス・アーカイブが不正に改ざん  
されたというウソが信じられた。

<https://twitter.com/mtracey/status/785964494182682624?lang=en>

彼らの中の誰かが、Chacon の告白があった後の今でさえ、これを認めたとしたら、私はび  
っくり仰天するだろう。なぜなら、MSNBC は、フェイク・ニュースや、その記者の書いた  
真っ赤なウソが、正しい候補者に有利なものである限りは、これを許容するというを繰

り返し証明してきたからである。

文字通り毎日、MSNBC のスイッチを入れると、いろんな人たちが、“フェイク・ニュース”が広まっているのは嘆かわしいと言っている。実は、MSNBC 自身がフェイク・ニュースをまき散らしているだけでなく、それが暴露されても、改めることを拒否しているのである。どうして彼らに、フェイク・ニュースを弾劾する資格があるというのか？

ジャーナリストや“専門家”が、自分の支持する候補者のために、こんなふう到大衆に向かって、堂々とウソをつくということは、明らかに危険である。このことは、皮肉にも、ワシントン・ポストの編集長 **Marty Baron** によって、最も強力に指摘された。彼はニューヨーク・タイムズの **Jim Rutenberg** にこう言った、「もしこの社会が、基本的な事実について人々が合意できないような社会であるなら、どうやって機能する民主主義が可能なのか？」

<http://www.nytimes.com/2016/11/07/business/media/medias-next-challenge-overcoming-the-threat-of-fake-news.html>

まさにその通り。もし有名なジャーナリストが大衆に向かって、マッカシー式の虚偽のブラックリストに基づいて、ある匿名の集団を信頼せよと言うなら、あるいは大衆に対して、それが作り物であると信ずべき理由が全くないのに、作り物だという根拠によって、ある情報文書が無視せよと教えるならば、それは民主主義に対する直接の脅威となる。ポデスタ Eメールの場合、これらのウソを喧伝した張本人が、“フェイク・ニュース”拡散問題をめぐって、最も派手に自らを傷つけてしまった。

しかしここで問題は、単なる偽善以上の領域にまで及ぶ。“フェイク・ニュース”が問題だという主張は、政府か、フェイスブックのようなテクノロジー巨人による、検閲や禁圧を伴う“解決”を要求するであろう。しかし“フェイク・ニュース”の明確な定義がない限り、そしてフェイク・ニュースが、最も大声でそれを問題にする者たちによって、攻撃的に広められているという認識がない限り、こうした解決がもたらす危険は、少なくとも、その問題そのものと同じくらい大きい。